

かがやく花々

平和の子ら

学校法人平和学園
平和学園小学校
2016年度 学校だより 第12号
〒253-0031
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2
Phone 0467-87-1662/ 0131
Fax 0467-87-0411
サイト <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

年間聖句 (2016年度)

このようにしてキリストに仕える人は、神に喜ばれ、人々に信頼されます。
ローマの信徒への手紙 14章18節

友だちとともに

校長 橘 明子

底冷えのする寒い朝、さすがに子どもたちは部屋の中で過ごしているのだろうとグラウンドをのぞくと、いつも通りの子どもたちの声。ドッチボール、ブランコ、縄跳び、鬼ごっこなど、寒さに負けず楽しそうに遊んでいました。このように異学年が混ざり合って遊ぶ姿を、現代社会の中では見る機会が少なくなっているのではないのでしょうか。本来は様々な個性を持った子どもたちが決められた関係の中だけではなく、自由に引き合う関係の中で育ちあうものなのではないのでしょうか。子ども社会は、子どもたちが成長していくための学びの種がたくさん蒔かれています。一つの課題に取り組む時も必ずそこに学びの種が蒔かれています。だからこそ、たくさんの経験を通して、他者とかわり、自分らしく成長をして欲しいと願います。

先日、教育に携わる関係者が集まり「あいさつができる子どもに」「人の話を聞く子に」というテーマで話し合いがもたれました。あいさつはコミュニケーションの第一歩として捉えて考えていきました。しかし、子どもの気持ちにも寄り添いながらの関わり方が必要であろうという意見もありました。年齢によっても子どものもっている個性によってもかわり方があるからということでした。大人の私たちは「あいさつは元気に明るく笑顔で」とつい要求をしてしまいます。しかし、挨拶が上手くできない子どもの気持ちに寄り添いながら、心をほぐして安心できる環境を伝えていくという意見もありました。子どもは成長過程の中で様々な困難にもぶつかり、いろいろなことを考えながら日々生活し、成長していきます。「あいさつ」からも一人ひとりの対応がとても大切になってくるわけです。子どもたちが、個性を大切にしながら集団生活の中で

過ごしていくには、子どもを取り囲む大人の姿勢が大事な役割であると言う結論になりました。

平和学園小学校の教育の中心はキリスト教の教えです。聖書の中にはたくさんのお話が書かれています。イエスさまが話された言葉の中には人に寄り添うこと、理解し受け入れること、ともに平和を作り出すことなどがたくさんあります。(放蕩息子、ザアカイさん、善きサマリア人、迷子の羊・・・子ども達も聞いたことがあるお話ばかりです。) 集団生活の中では一人ひとり異なった個性を持ち、ともに過ごす中で互いに認め合って成長していくことを学んで欲しいと願います。心と身体のバランスが上手く取れない時には子どもたちの関係性も少しギクシャクしてしまうことがあります。その様な時には、どのように集団生活の中で過ごしていくことがよいのかを共に考え、バランスを上手く取れるようになるまでゆっくり時間をかけて皆で育っていきましょう。

各学年の3学期の一日一日を大切に生活していきましょう。保護者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

